

平成26年度
教育委員会の点検と評価

平成27年6月
川越町教育委員会

目 次

I	点検・評価の実施	… … … … … … … … … …	1
II	点検・評価の目的	… … … … … … … … … …	1
III	点検・評価の対象	… … … … … … … … … …	1
IV	点検・評価の流れ	… … … … … … … … … …	1
V	学識経験者の知見の活用	… … … … … … … … … …	2
VI	実施方法の改善	… … … … … … … … … …	2
VII	自己評価	… … … … … … … … … …	2
VIII	点検・評価	… … … … … … … … … …	3
	・ 教育委員会の活動	… … … … … … … … … …	3
	・ 学校教育分野の活動	… … … … … … … … … …	4
	・ 社会教育分野の活動	… … … … … … … … … …	6
IX	総評	… … … … … … … … … …	8

I 点検・評価の実施

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、一般に公表いたします。

■ 地教行法改正のポイント

- 1 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行う
- 2 その結果に関する報告書を作成し、議会に提出する
- 3 一般に公表しなければならない

II 点検・評価の目的

教育委員会制度では、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的、具体的な教育行政の事務・事業を執行します。また、それらが適正かつ的確に執行されているかをチェックし、それをもとに常に改善していく必要性があります。

川越町教育委員会では、より充実した教育行政を進めるとともに、開かれた教育委員会の推進を図り、町民の皆様への説明責任を果たすため、この点検・評価を積極的かつ効果的に活用します。

III 点検・評価の対象

教育委員会が前年度に実施した施策等（事務・事業）を点検・評価します。

IV 点検・評価の流れ

前年度に実施・推進した施策等について、点検・評価を行い、議会への報告及び町民への公表を行います。

■ 実施スケジュール

1	前年度	点検・評価方法の確認
2	4 月	評価項目，取組結果の整理 教育委員会での点検・評価
3	5 月	学識経験者への意見聴取 教育委員会のまとめ
4	6 月	議会への報告
5	7 月	町民への公表（町広報・HP等）

V 学識経験者の知見の活用

教育委員会の点検・評価の客観性を確保するため「教育に関し学識経験を有する者の知見を活用」します。

これにより、教育委員会自らが行った点検・評価やその方法に対して公正・的確な意見を述べていただき、この制度の客観性を確保し、効果性を高めます。

■ 学識経験者

川越高等学校 校長 秦 欣二 さん
元・川越北小学校PTA会長 松岡 弘高 さん

VI 実施方法の改善

教育委員会の点検・評価の実施方法等については、随時、改善を行い、より良い点検・評価の形を求めています。

VII 自己評価

項目ごとに、目標（達成指標）と取組結果、成果・実績を比較・勘案して、判断基準に従って自己評価を行います。

■ 取組結果の判断基準

評 価		達 成 度
A	実施した	100% 実施
B	ほぼ実施した	70～99% 実施
C	実施がやや不十分	51～69% 実施
D	実施が不十分	50%以下の実施

■ 自己評価（達成度）の判断基準

評 価		達 成 度
A	達成している	90～100% 達成
B	ほぼ達成している	70～89% 達成
C	やや達成していない	51～69% 達成
D	達成していない	50%以下

No.	施策	目 標	平成26年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取 組	結果	成果指標	実績	評価				
I	1 教育委員会会議の適切な開催と運営	(1) 教育委員会会議の適切な開催の推進	①定期的・計画的な開催を図る。 ②必要に応じて速やかに開催する。	・定期開催日の設定（年間計画作成）	A	・当面の重要課題について、充実した協議が実施されたか。 (会議録にて判断)	実施	A	活発な議論ができていて評価できる。保護者代表の教育委員もいるとのことであるが、もっと直接、保護者の生の声を聴き、保護者に協力を求める機会を設けたらいいのではないかな。	A	学校・園における保護者アンケートにより、保護者の意向を把握し、それを教育施策に反映させる努力を今後も続けます。
				・毎月の定例会開催（年12回）	A						
				・臨時委員会の適切かつ迅速な開催	A						
		(2) 効果ある教育委員会会議運営の工夫	①議案や議題を事前に通知する。 ②町長等との懇談会を実施する。 ③当面の教育課題（学校教育・社会教育）について協議する。	・重要事項の議案を事前通知	A						
				・町長との懇談会の実施（年1回）	A						
				・校園長会との合同開催	A						
	2 教育委員会活動の保護者や地域住民への情報発信	(1) 広報活動の充実	①『川越町教育基本方針』の重点について保護者・地域住民への周知を図る。 ②教育委員会実施事業について、保護者・地域住民に向けて情報発信を図る。	・『川越町教育基本方針』重点のHP掲載	A	・保護者アンケート調査での、「川越町教育基本方針」重点の認知度75%以上。	81%	A	コンパクトな町のメリットを活かし、皆で学力を向上させようという雰囲気醸成させることが大切である。保護者の意識改革は、ホームページ掲載だけでは難しい。重点としていることをもっと保護者の意識に落ちるような発信の内容と方法を考えた方がよい。	A	「家庭学習の定着」「ていねいな言葉づかいの定着」「あいさつ声かけ運動」について、保護者に訴える方策を継続して、検討します。
					・『川越町教育基本方針』に基づく教育活動の紹介（町広報誌 年2回以上）						
		(2) 情報の公開	①教育委員会活動の透明性を図る。	・『教育委員会の点検と評価』をHPにて公開	A						
				・開示請求に応じて、教育委員会会議の議事録を開示	A						
	3 教育委員の自己研鑽	(1) 今日的教育課題に関する研修	①県教委、市町村教委の研修会等へ積極的に参加する。 ②今日的教育課題に関する先進的な取組への視察等を行う。	・県教育委員会主催の研修会等への参加	A	・教育委員会会議での協議に、研修結果が生かされたか。 (会議録にて判断)	良好	A	教育委員研修が、施策の改善に繋がっていると思うが、先進校の授業や学校経営を見てくることがもっと必要なのではないかな。	A	先進事例を視察するよう努力します。
				・県内外で開催の研修会・研究協議会への参加、先進施設等への視察の実施（年1回）	A						
	4 教育委員による学校及び教育施設の状況把握	(1) 学校訪問の充実	①各校・園のオープンスクール、行事等へ積極的に参加する。 ②教育委員会（会議）を、各校園で実施する。	・オープンスクール、行事等への参加（各委員年5回）	A	・教育委員会会議において、教育環境に関する提案・意見がされたか。 (会議録にて判断)	良好	A	教育委員が学校の実態を把握することに努めている状況は評価できる。特に、施設面での安全性を確認し、改善を前進させようとしていることは大切だと思う。	A	今後も、教育委員による教育施設の状況を把握することに努めます。
				・各校園での教育委員会の開催（各校園1回）	A						
		(2) 教育施設訪問の充実	①各校・園や関連施設の状況を把握し、改善を促す。	・学校・園や関連施設等の訪問と改善点の指摘(随時)	B						

No.	施策	目 標	平成26年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取 組	結果	成果指標	実績				評価	
II	学校教育分野の活動	1 指導の重点 ☆一人ひとりが大切にされる教育の推進	(1) 確かな学力の育成<知識・技能・知恵>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館図書標準冊数の達成 (H25～26の2ヵ年計画) ・図書館司書の配置 (各校園週1回) ・基礎学力充実加配教員の配置 (小中・週30時間以上の少人数授業の実施) ・CRT (学力検査) の実施と分析、助言 (小2～中3) ・学び合う保育・授業を推進するための指導主事訪問 ・日本語指導員の配置 (3名) ・「家庭学習の手引き」の作成・配布 (全教員・保護者 (来入児含む) 対象、HP掲載) ・「挑戦できる場」を設定した教育活動の研修会実施 	<ul style="list-style-type: none"> A A A A A A B A 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書がすきである」の肯定回答が80%以上。 ・CRTの到達度評価(小→2以上, 中→3以上)が80%以上。 ・「普段の授業で友達と話し合う活動をしている」の肯定回答が90%以上 ・「学校で決められた家庭学習を毎日している」の肯定回答が80%以上 ・「進んで学習に取り組んでいる」の肯定回答が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 71% 76% 84% 71% 79% 	C	朝読、ファミリー読書、ブックスタート事業等の町の施策は評価できるが、真の読書好きを育てる術の工夫がもう一步、ほしい。読書は生きる力の礎となる意識を子ども達に持ってもらう取り組みが必要。スマホやネットゲームで、読書時間を奪われている状況も問題。家庭学習が大切と思っている保護者がどれだけのいるか、保護者がまず、スマホをやめて、子どもと向き合う時間を作ることが必要という認識を持つことが重要と思う。保護者の意識を変える施策を期待したい。	C	読書活動の推進について、町全体で取り組む仕組みづくりを検討します。また、スマホやネットゲームの問題について、学校も含め、対応について協議していきます。
			(2) 豊かな心の育成<思いやる心・感動する心>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育カリキュラムに沿った人権教育の推進 (小中) ・「自然教室」の実施 (小中、全額公費負担) ・「自分発見! 地域ふれあい事業」の実施 (中) ・三重郡子ども人権フォーラム21を協働して実施 ・いじめに関する実態調査の実施 (小中・学期に1回以上) ・広報・HPを通じた『ていねいな言葉づかい』の地域への啓発 (広報・年2回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> A A A A A D 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答が90%以上。 ・「ていねいな言葉づかいができた」の肯定回答が80%以上。 ・「学校のきまりを守っている」の肯定回答が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 94% 75% 85% 	B	命の大切さを学ぶには、幼い頃からの体験が重要であり、自然教室の施策は評価できる。ていねいな言葉遣いは、相手を尊重することであり、これには「聴く」姿勢を育てることが重要。話すばかりではなく、相手の話を粘り強く聴く取り組みも期待したい。職業体験の前に、PTAに協力を乞うなどして、地域で活躍する職業人の話を聞く機会をもっと設けてほしい。	B	自然体験の活動を教育現場に意識して、取り入れていきます。「聴く」重要性を意識させる教育活動についても、検討していきます。地域の職業人の話を聞く機会を設けることも、検討します。
			(3) 健やかな身体の育成<運動を楽しむ力・健康安全意識>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動等、大会行事の参加に必要な経費の助成 ・養護教員部会と連携した、学校保健に関する学習会等の実施 (年1回以上) ・学校栄養職員が係った、食に関する授業の実施 (各小中年1回以上) ・新体力テストの継続実施 ・防災にかかわる授業の推進と防災教育事例集の作成 (データベース化) ・地域や行政の防災訓練への、児童・生徒・教職員の参画要請 	<ul style="list-style-type: none"> A A C A B B 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んで運動に取り組んでいる」の肯定回答が、80%以上。 ・「新体力テスト(小5、中2)」における総合判定C以上の割合が、70%以上 ・防災教育事例集のデータベースに、各校園の各学年につき、1例以上の事例が登録。 	<ul style="list-style-type: none"> 78% 71% 一部実施 	B	栄養教諭や養護教諭が教壇に立つ機会を増やし、児童生徒の食や健康への意識を高める取り組みをもっと期待したい。防災教育は工夫して、毎年違うことをしないと、マンネリ化する。意識が薄れた時が危ないので、マンネリ化を防ぐ手立てを考えてほしい。	B	食や健康への意識を高める教育活動を増やすよう、努力します。学校等での防災訓練がマンネリ化しない工夫を、校園長会で情報交換して、推進します。

No.	施策	目 標	平成26年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取 組	結果	成果指標	実績				評価
II	学校教育分野の活動	(1) 学ぶ喜びを実感できる授業の推進	・保育・授業公開時の、指導主事の事後検討会への参加（各校園5回以上の実施）	B	・「一人ひとりが主体的に取り組めるような指導の充実を図っている」の肯定回答が90%以上。 ・「先生は自分に合った教え方やアドバイスをしてくれ、毎日楽しく授業に参加している」の肯定回答が80%以上	93% 84%	A	校内で教師がお互いに授業を見合う関係を構築し、自分の授業に活かせるものは何かを教師自身が意識することが大切。アクティブ・ラーニングの導入を文部科学省は提起しているが、持ち合わせの知識を総動員して、仲間と係って、問題解決法を編み出していくことが求められている。このような授業への取り組みに期待したい。	A	アクティブ・ラーニング等の手法も研究し、児童生徒に「生きる力・ともに生きる力」をつけさせる授業力の向上をめざした研修を推進します。
			・授業改善や学力向上に関する外部指導者の紹介、研修会等の実施方法について支援。（各校3回以上の開催を推進）	A						
			・町研究員制度を活用した教職員への還流報告の場の設定（夏季教職員研修会）	A						
			・経験2～3年目の教職員や講師に対して、指導主事等による指導・助言の実施（対象教員に対して年2回以上）	A						
		(2) 生徒指導の充実と学級づくりの推進	・指導主事による、児童生徒の実態把握のための学校訪問及び指導・助言	A	・「自分にはよいところがある」の肯定回答が80%以上。	71%	B	自己肯定感をいかに健全に形成させていくかが課題と感じる。相互承認を意識的に行う取り組みを授業等のなかに入れることを期待したい。	B	子どもどおしが認め合う授業改善に取り組んでいきます。
			・こども・家庭相談支援係等との連携推進	A	・QU調査の「要支援群」の減少。（1回目と2回目を比較）	21人減				
			・QU調査の実施と分析方法の助言（小2～中3）	A	・問題行動等報告の件数が、昨年度より減少。	20件減				
			・不登校支援員の配置	A	・不登校児童生徒数が昨年度より減少。	8人減				
		(3) 今日的教育課題に対応した研修の推進	・町教委主催教職員研修会の実施	A	町教委主催の教職員研修会アンケートにおいて、肯定回答が90%以上。	100%	A	今後も継続し、授業力の向上を進めてほしい。	A	個々の教師の授業力向上を意識した研修に取り組めます。
	・主任等研修会や各種担当者会議など、子どもたちの課題把握と今後の方向性について確認する場の設定（年3回以上）		A							
	・特別支援教育に関する外部指導者を招聘した研修会の実施（年1回以上）		A							
	3 経営の重点 ☆ 信頼される園・学校づくりの推進	(1) 開かれた園・学校づくりの推進	・保幼小中連携にかかわる公開保育・公開授業の実施	B	・保護者アンケート「学校公開や各種通信、HPなどを通じて学校の情報を発信している」の肯定回答が80%以上。 ・学校・園支援ボランティアの参加数の累計を、年間100人以上。	92% 達成	A	地域の方の協力を得て、教育をしてもらっていると感じる。しかし、ボランティアの好意に甘んじている保護者がいる。誰もが学校づくりに参画する意識の向上を図る必要を感じる。	A	保護者も学校を支えるという意識づくりについて、学校とともに検討していきます。
・学校・園オープンスクールの実施			A							
・地域の教育力の活用を支援（地域教材・地域人材の活用支援）			A							
・学校・園支援ボランティアの拡充			A							
(2) 人材育成の推進		・教職員育成支援システムの適切な運用の指導（小中）	A	・教職員育成支援システムの自己目標の達成度が80%以上。	86%	A	管理職が、教員の自己目標の進捗を、面接により、把握するシステムはとてよい。	A	教員の目標管理のシステムをより充実させていきます。	
		・川越町教育研究員制度の継続と、それを活用した自主研修の推進（幼小中、研究員15名）	A							

No.	施策	目 標	平成26年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取 組	結果	成果指標	実績				評価	
II	学校教育分野の活動 3 経営の重点 ☆ 信頼される園・学校づくりの推進	(3) 安心・安全な環境整備の推進	・警察や関係機関と連携した防災・防犯教室の実施の促進（幼小中）	A	・学校アンケート「学校は、緊急時の対応など、危機管理体制に気を配っている」の肯定回答が90%以上。	92% 29件減	A	「通学路交通安全プログラム」が作成されたが、これで児童の安全が継続的に点検改善される仕組みができた。保護者の声をよく聞いてもらい、より実効性のある推進を期待したい。	A	児童生徒の安全確保は、今後も保護者、地域とともに、推進できる仕組みづくりを構築します。	
			・登下校における、スクールサポート等の確保（小）	A							
			・「絆ネット」を活用した不審者情報等の発信（幼小中）	A							
			・校区安全マップの新規作成と配布	A							
			・学校施設（危険箇所の修繕など）の改善（幼小中）	A							
			・危機管理マニュアルの作成と見直しの促進（幼小中）	A							
		(4) 学校経営手法の定着	①学校教育ビジョンを策定し、その実現のための積極的な教育活動の推進を図る。 ②保護者や児童生徒からのアンケートを活用しながら「学校自己評価」の取組推進と結果の公表と活用を図る。 ③「学校関係者評価」の実施と園・学校経営改善の推進を図る。	・「川越町教育基本方針」の町研修会での周知（幼小中）	A	・学校自己評価の報告（ビジョンに対して成果と課題が考察され、改善策が練られているか）	良好	A	学校関係者評価会議について、学校ビジョン等がどれだけ達成したかの説明を学校側から聞き、委員が意見を述べるスタイルであるが、保護者と民生委員等地域の方では認識も違い、深まった議論ができていないと感じる。	A	学校関係者評価のあり方について、学校とともに再考します。
			・「学校（園）づくりビジョン」のヒヤリングにおける指導・助言	A							
III	社会教育分野の活動 1 人づくり・まちづくり	(1) 明るい家庭、住みよい地域社会づくりの推進と青少年の健全育成の充実	①家庭教育の推進 ②青少年の健全育成 ③三世代交流の推進 ④「あいさつ・声かけ運動」の推進	・「あいさつ・声かけ運動」の発展に向けて、あいさつ+1（ふらすわん）参加者の増に向けた取組の実施	B	・あいさつ+1（ふらすわん）参加者数の増 目標 600名	550名	B	あいさつ・声かけ運動について、目標には達しなかったが、昨年より増加しており、地道な取り組みを続けることが大切と思う。補導活動の中身について、もっと効率的で、非行を抑制させるものに改善した方がよいと思う。	B	あいさつ・声かけ運動を、「あいさつ+1」を柱として着実に浸透していくよう、継続して努力します。非行防止に効果的な施策について、検討します。
			・非行防止補導活動の実施（年17回）	A	・成人式の実行委員による自主的な企画と運営の実施	円滑に実施					
			・「子ども110番の家」と関係者交流会議の開催（5地区）	A	・少年非行概況による補導状況で、川越町が管轄となる交番の「深夜はいかい」の件数が230件以下	220件					
			・総合型地域スポーツクラブFAGにて体験事業の実施	A	・家庭教育講演会でアンケート調査を実施し、「満足」以上の回答率が80%以上	88%					
			・三世代交流事業の実施（10地区）	A							
			・成人式の実行委員による企画と運営	A							
			・家庭教育講演会の開催	A							
	2 思い合うまち	(1) 心豊かで活力と連携に満ちた地域づくりの推進	①人権尊重社会の実現をめざした町組織の充実 ②人権問題への正しい理解と認識、主体的活動の推進 ③人権啓発活動の推進	・人権・同和教育推進協議会役員会の開催（3回）	A	・学習会及び研究大会への参加者アンケート結果で、「人権意識向上」の回答率が80%以上。	82%	A	いじめ防止基本方針が公表されたが、いじめ等人権侵害の未然防止に力を入れてほしい。	A	いじめ防止をはじめ、今後も人権意識向上に、継続的に取り組んでいきます。
・参加型人権・同和学习会を実施（5回）			A								
・三重県人権・同和教育研究大会へ参加（16名）			A								

No.	施策	目 標	平成26年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取 組	結果	成果指標	実績				評価	
Ⅲ	社会教育分野の活動	3 学び合うまち	(1)いつでもだれもが学べる生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館を中心に高齢者から小学生までを対象とした講座を開設(21教室) 「学ぶ楽しさ感」を伝えるため、講座等の活動の様子をホームページ等に掲載 愛好会新規会員募集の支援 川越富洲原駅構内ショーケースに、愛好会等の作品の展示 魅力ある図書室経営の工夫(蔵書冊数54,000冊,貸出冊数66,000冊) 読み聞かせ・お話の会の開催(24回) 図書館等複合施設の開館に向けたMLK連携事業の検討 MLK連携事業の試験的实施 	B B A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 講座受講者にアンケート調査を実施、「満足」以上の回答率が80%以上 講座参加者数の増加 図書貸出冊数の増加 MLK連携事業の実施 	94% 117名減 2616冊増 実施	B	ニーズの掘り起こし、スクラップ&ビルドを意識して、講座等についての活性化を図ってもらいたい。	B	町民のニーズ、やりたいことが事務局に届くような仕組み作りを模索していきます。
		4 文化の薫り高いまち	(1)文化芸術に親しむ機会の充実、地域文化の保存と継承	<ul style="list-style-type: none"> あいあいホール自主事業の内容を企画委員会で検討し、町民の意見を反映した多様な分野のメニューの提供 文化祭における芸術・芸能の発表機会の提供 図書館等複合施設の開館に向けた、資料館展示内容等の検討 町指定無形文化財映像ソフトの活用 役場庁舎などにおいて資料館所蔵品の一部の展示 町HPにおいて、あいあいホール自主事業などの情報を随時提供 	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 業において入場者アンケートを実施し、その結果において、「たいへん満足」「満足」の回答率が80%以上。 資料館所蔵品の展示と説明について感想を募り、その感想により判断。 映像ソフトの鑑賞者にアンケートを実施し、「文化財に興味を持った」の回答率が80%以上。 	92% 良好 95%	A	国際化のなか、地域のよさを語れることがますます重要な世の中になってきている。文化財について、映像ソフトや民俗展示、広報や新聞等で紹介する事業はとてもよい。あらゆる機会を捉えて、映像ソフトを映写するなど、今後も町民に町を誇りに思う意識を育む取り組みを期待する。	A	今後も、文化財の町民への広報、啓発を推進し、町民がまちに誇りに持てるような企画を立案していきます。
		5 心身ともに健やかなまち	(1)スポーツの振興と健康で心豊かなまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーションの普及と推進 スポーツを通じた仲間づくりの推進とスポーツ団体の育成、支援 スポーツ指導者、リーダーの育成・充実 スポーツ施設の充実と利用促進 「運動する楽しさ感」を伝える広報活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> チビッコドッジボール教室、ソフトテニス教室、シェイプアップ教室、ハイキング等の開催 「運動する楽しさ感」を伝えるため、教室等の活動の様子をホームページ等に掲載 体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブFAGの活動の維持継続 各活動への講師の派遣(8回) 総合運動場の施設及び運動用具等の維持管理の充実 	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 教室等の参加者に対してアンケートを実施し、その結果において「満足」以上の回答率が80%以上。 教室参加者数の増。 スポーツ施設の利用団体数及び利用者数の増。 	100% 6名減 団体3.4%減 利用者数6.1%増	A	駅伝の活躍もあり、社会体育の充実が素晴らしいと感じている。	A

IX 総 評

『平成26年度教育委員会の点検と評価』については、教育委員会の取組について、重点化を図り、「成果指標」を意識した「取組指標」の設定を試みた。この試みに対し学識経験者は、「より目標が明確化され、何に取り組む必要があるのかについて明確になったと感じる。努力の跡も評価できる。但し、成果指標の目標数値等が妥当であるのかどうかについては、今後、経年で実績を見ていく必要がある。」というご指摘をいただいた。

当町は、駅伝の活躍もあり、体力面での評価は高いものの、学力については課題が大きい。これらについて、教員の授業力の向上と保護者の協力が両輪で機能していくことが、重要と言える。また、スマホやネットゲームに夢中になり、食や健康、読書活動への対応がおろそかになっている現状に、危機意識が薄いことも課題として浮上している。

今後は、学力向上に重点的に取り組むなかで、アクティブ・ラーニングの導入等、児童生徒が自らの力で、協働的に問題解決能力を培う教育が求められている。そして、まちを誇りに感じられるような更なる施策の検討や改善を進めていくことが重要であると考えます。